

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between maternal distress during pregnancy and lower 5-min-Apgar score of the offspring: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠中の母親の心理的ストレスと新生児のアプガースコア低値との関連:
エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 大阪 UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Environmental Health and Preventive Medicine

年: 2025

DOI: 10.1265/ehpm.24-00305

筆頭著者名: Gita Nirmala Sari

所属 UC 名: 大阪 UC

目的:

アプガースコアは、出生後の新生児の状態を評価するスケールであり、得点が高いほど、良好な状態であることを示す。本研究では、妊娠中の母親の心理的ストレスと子どものアプガースコア低値との関連を検討することを目的とした。

方法:

エコチル調査に登録された 87,765 組の母子を対象とした。国際的な心理的ストレスに関する基準(the Kessler Psychological Distress Scale)を用い、妊娠中の母親の心理的ストレスを得点によって 3 群【低(5 点未満)/中(5-12 点)/高(13 点以上)】に分類した。多変量ロジスティック解析を用いて、母親の年齢及び共変量を調整した上で、妊娠中の母親の心理的ストレスの区分別に子どもの出生後 5 分時点でのアプガースコア低値(7 未満)に関するオッズ比及び 95%信頼区間を算出した。

結果:

妊娠中後期の母親の心理的ストレスは、子どものアプガースコア低値と正の関連を示し、低ストレスの群と比較した子どものアプガースコア低値に関するオッズ比(95%信頼区間)は、中ストレスの群では 1.22 (1.05-1.42)、高ストレスの群では 1.42 (1.00-2.01)であった(p for trend=0.002)。この関連は、早産(37 週未満)および低出生体重(2,500 g 未満)において認められた。

考察(研究の限界を含める):

本研究の強みは、大規模出生コホート調査のデータを用い、詳細に検討した点である。本研究の限界としては、妊娠中の母親の心理的ストレスが自記式質問票から得られたこと、妊娠中の母親の心理的ストレスに関するバイオマーカーが測定されていないこと、出産時の全身麻酔や妊娠中の入院などの一部の条件が結果に影響を与える可能性があること等が考えられる。

結論:

妊娠中後期の母親の心理的ストレスは、子どもの出生後 5 分時点でのアプガースコア低値と関連した。この関連は、早産や低出生体重において認められた。